



天保五十新刻

諸名家月並
四季發句

今様類題集

浪花書肆 文淵閣梓

伯さるの佳女ハ子坊ノ宮ノ
 ころさると久しき程よるに
 法、しるおろをちねあは
 うも本うえはるるに
 ちちやうのやまもむら
 あれハたなむれ袖に

あはれしんよあふはつて居の
りしあつるのちあさあけあ
一さうとるもふはるんしと

志ヶ

あつる

俳諧類題集

春又部

元日	え日や何よあきさる花びり	井眉
四日	二年ふ待たぬきそあまら	虎造
立春	馬もあふ人ふあぬしあふ	月推
若水	あふあや心乃しむ部のてえ	紫石
菫菜	あふらあふあふあふあふ	○丸
菖蒲	あふあふあふあふあふ	起源
猿引	猿引の戸はてえせる山あふ	風景
正月	正月あふあふあふあふ	景元

凍解

凍とけ 氷はもうとけ 春の

唐花

霞

山のほとけと 霞をくま ありう那

柳花

柳花の 花は 枝を 揺るがす

秋花

一週より 上を ぬき みる

夏花

河をくま 葉を ぬき みる

有佛

湯水

湯水は ぬき みる

夏花

永日

永き 日や 埃の たるる 歳入

里花

春風

山柳より 上を ぬき みる

夏花

まき風は ぬき みる

夏花

樹の 葉の 影を ぬき みる

竹人

夏花

池の 水は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

月

甲

甲の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

春

春の 花は ぬき みる

夏花

梅

何事もいぬあまた
枯れてはつるまはる梅のま
遠くまでつるまはる梅のま
万葉のまはるまはる梅のま
萬葉のまはるまはる梅のま
新もあまはるまはる梅のま
又しても梅抱ひてつるまはる
身替へ梅のまはるまはる梅のま
梅のまはるまはるまはる梅のま
白梅や折るまはるまはる梅のま
あまたつるまはるまはる梅のま

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

柳

目もつるまはるまはる柳のま
情りなまはるまはる柳のま
柳のまはるまはるまはる柳のま
帰りの柳のまはるまはる柳のま
あまたつるまはるまはる柳のま
まはるまはるまはるまはる柳のま
柳のまはるまはるまはる柳のま
あまたつるまはるまはる柳のま
まはるまはるまはるまはる柳のま
僕もつるまはるまはる柳のま
あまたつるまはるまはる柳のま

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

一月

草

あまたつるまはるまはる草のま

一月

松

そとやりの花は

そとやりの花は

そとやりの花は

蛙

蛙の子

蛙の子

蛙の子

蛙

蛙の子

蛙の子

蛙の子

蛙の子

蛙の子

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

凍解

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

凍の菓の家

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

梅

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

井

奉加百以夕時日景
以中れりや梅の影
その戸や梅の影
非鹿の影
白く免や梅の影
梅の影
浪うく舟の影
舟の影
舟の影
舟の影
舟の影

一鹿
君竹
貴勢
霍橋
若洲
子雀
松舟
君竹
一鹿
貴勢

若菜

若菜の影
若菜の影
若菜の影
若菜の影
若菜の影

芭蕉

下前

下前の影
下前の影
下前の影
下前の影
下前の影

日雄

梅

梅の影
梅の影
梅の影
梅の影
梅の影

井左

梅の影
梅の影
梅の影
梅の影
梅の影

三茂

梅の影
梅の影
梅の影
梅の影
梅の影

其柳

梅の影
梅の影
梅の影
梅の影
梅の影

松

柳

繩張乃切し径
歌の梅眼に
遊いせし烟もあ
折るもめりし
梅の雪の
海苔の雪も流
木のやうな樹
て、ら平日も
梅も一か
小使も一
引強て

画片
月誰
全
全
其雲
其樂
貴勢
常人
井左
其窟

栞

草

木の芽

青栞の存分
赤下
流火のま
青栞や車
木のの芽
木の芽
紫舟の紫
切つ掛
廻小

青意
子雀
尺察
机栞
井左
全
尺察
芦洲
君竹
尺察
東

芥

芥指小温泉上流てあり塘井
 角や芥子宿 八多のま
 芥指やみふ書い今時音
 芥指 夕陽のつく田邊
 芥 指や勢勢跡一の上
 芥 新て合すも寒雄山
 古草や西り水も井の横
 古草の上りて経る六比蔵
 古草のまきや雪の越えれり
 古草のまきハて中り出たり
 古草やあど湯れ水のま

井左
 鹿
 一人
 井左
 扇暑
 秋水
 松緑

鶯

古草

花啼の鶯寒一の條の上
 鶯のまき小定すれおのり
 住連り田井の上や百子鳥
 百子鳥 北流目玉川世小古りて
 水奈茶やの井も田井百子鳥
 一群ハ六田へまねり不き
 石奈より鳴止り、つれ小れ
 石奈のまき小炬燵の山
 石奈のまきやも八指の中
 石奈のまきや鬼馬の用
 起り思の被り、ゆり割

凡察
 子雀
 机押
 凡察
 全
 雷竹
 井左
 机押
 全
 凡察
 井左

百子鳥

鶯鳥

浅蜩

海苔

若の女不身... 海苔... 凡察... 教勇...

机柳 又竹 桐室 一鹿 凡察 机柳 教勇 平 芝山 枝枝 君竹 井左

居籠

教入 中入の... 尾義長... 柳... 霞... 長洲... 糸... 永日...

全 可廉 美中寺 闲斎 雀笠 梅室 月雄 天来 寸久茂 狸角 朔雄 沙鸥

春風

春風くもくもく先くもくもく

井資

も風や浪の人のぬ大工山泉

木土

春夜

夜中くもくもく歌毎のなみ

蟠龍

初雷

とつ雷やつひれまるとつ

其雀

雨

順乃めしはみ知れぬ中

霞遊

朧月

縦あや指あやふ指の書

井眉

木の白ひまの白や花はら月

松人

をきくたる樹の影や掃く

其雀

風長のゆはぬき雪は朧月

柳枝

みれ日松

藤くもくもく松の香はぬよの目

月雄

芥

芥の芥の扱よりはる芥

井左

二月

まはく知まらなく世屋の事

まき藤

朧月

又さして縦あやふ指の書

蕙布

大あやふ指あやふ指の書

柳枝

春

春く人くぬ白くもくもく

梅室

あやふ指あやふ指の書

新花

今やうもあやふ指あやふ指の書

里芳

のすむ白やあやふ指あやふ指の書

糸候

そのあやふ指あやふ指の書

月雄

煙あやふ指あやふ指の書

行人

一とりのりくもくもく

書作

ゆきや海をうたはれ

表果

春風 ちる風や吹く時ハ船あり
 子 ちるやわづらひのちる土境の系
 月 礼後けまうそ越るやちるわづら
 全 大徳の花ひきささる改干
 林曹 赤土のちるあゆみ系改干
 最左 ちるささるあゆみ系改干
 初稿 ちるささるあゆみ系改干
 紅梅 ちるささるあゆみ系改干
 接木 ちるささるあゆみ系改干
 草の花 ちるささるあゆみ系改干

井 資
 子 雀
 月 難
 全
 林 曹
 最 左
 松 露
 真 笛
 中 来
 〇 丸
 表 札

二月 ちるささるあゆみ系改干
 二月 二日灸 ちるささるあゆみ系改干
 徳月 徳月八時 ちるささるあゆみ系改干
 春の月 春の月 ちるささるあゆみ系改干
 出代 出代 ちるささるあゆみ系改干
 糸 糸 ちるささるあゆみ系改干
 魚 魚 ちるささるあゆみ系改干

上 道 亮
 井 丸
 四 季
 全
 〇 丸
 表 札
 魚 大
 炭 白
 一 好
 魚 大

梅

梅

下や旅巻の月おろそめ松
 心のそめて雪もらんりおたふ
 増あしきり月さるるるも思ふ
 履もたしそあ履の上りちり梅
 梅もさる中ふ又あそや履程の音
 一ふゆ下城下のこゆる梅うき
 新入る慈の草あそたらくそ
 西宮にあつて空はき梅うき
 飛舟のやそ梅おききき
 りりりさむるさあや夕ささ
 梅うきや葉つゆあふさあふ

相葉
 井左
 子孫
 井眉
 茂家
 松瑤
 全
 吉林
 尖勢
 子孫
 西月

雑

花子
蛙

おむむらうさあや梅のよひ日事
 こめたむあも身もせぬふあふ
 梅さけを梅さけつれ梅うき
 新終りのあはれてるも梅さ
 始あつてあふは出守はな花子
 雪あふるあふは雑さ梅あふ
 本事通程ある寺や花の子
 土積く車うきさああつらぬ
 あいさあつちかおあさる梅
 ものさあふさあふ梅うき蛙
 吉林のよあふぬ少梅や蛙

響る
 貞風
 千曉
 養丸
 物陽
 其柳
 画井
 一月
 其家
 全
 子孫

蝶

花のまゝにうつりゆくを蝶と云ふ

奇淵

蝶と云ふの舞ふる風乃其奈か

久風

蝶と云ふの舞ふる風乃其奈か

井虎

地穴出

穴をぬる地をぬらんと持ふ針

異月

中花

花をぬるの針をぬらんと持ふ針

草沈

花をぬるの針をぬらんと持ふ針

松濤

花をぬるの針をぬらんと持ふ針

千里

幼名

幼名や雲乃ほ水の邊より

千笛

海若

乃其の海若や水乃其の海若

久臈

初午

初午のち報くくく大板

菊優

涅槃

移らん舎やれを三神花の子

三奈

月維

帝人

全

杏人

三茂

木士

魚大

信人

松石

杏甫

其松

椿

椿のまゝにうつりゆくを椿と云ふ

苗代

苗代の上にてうつりゆくを苗代と云ふ

菊苗

菊苗の引裂き糸々葉の苗

小米花

小米花の引裂き糸々葉の苗

猫の恋

あつこ合て恋をぬらんと持ふ針

其松

魚上氷

日の影と小魚の冬をぬぐる

如雲

鶯

鶯の初音は春の初めに響を起

蒼虬

鶯の初音は春の初めに響を起

東島

鶯の初音は春の初めに響を起

一好

鶯の初音は春の初めに響を起

袋人

雲雀

見ゆるるる田舎場マツヒより

全

雛子

温泉浴の暇は春の初めに響を起

全

帰雁

羽をたたくは春の初めに響を起

井右

引雀

ふ初マ眠アを初めに響を起

瓢茶

蝶

山越の先には春の初めに響を起

子雀

善如布

善の戸や二見のこころは春の初めに響を起

蕪村

弥生

大佛の柱をくぐるは春の初めに響を起

閑更

雛

おまをみれば春の初めに響を起

日高 月雄

おまをみれば春の初めに響を起

麦人

汐干

四十の日の暮は春の初めに響を起

エト 久藏

おまをみれば春の初めに響を起

星澄

おまをみれば春の初めに響を起

草居

曲あり

おまをみれば春の初めに響を起

馬神

忘れ

おまをみれば春の初めに響を起

子雀

竹秋

おまをみれば春の初めに響を起

春花

瞳月

おまをみれば春の初めに響を起

イヨ 春朝

春風 春風はしのけゆく春の風と切るともえ
 春日 春の日のやけふのゆくゆくは秋
 永日 永き日や子ねの根に鶴の時
 春鳥 春の鳥やけしめは秋の鳥
 春海 春の海は波のまじりては雨
 甲 甲の鳥は甲の柳のうら
 夜とぎ 夜とぎの鳥は夜の鳥
 夕暮 夕暮の鳥は夕の鳥
 雲水 雲水の鳥は雲の水

才久も

月娥

連吟

里芳

井左

蕉枝

柳枝

月娥

鶴笠

井左

雲水

雑

雑 雑の鳥は雑の鳥
 秋下 秋下の鳥は秋下の鳥
 忘る 忘るの鳥は忘るの鳥
 巨勢堂 巨勢堂の鳥は巨勢堂の鳥
 夕暮 夕暮の鳥は夕暮の鳥
 夜 夜の鳥は夜の鳥
 草葉 草葉の鳥は草葉の鳥
 秋葉 秋葉の鳥は秋葉の鳥
 松葉 松葉の鳥は松葉の鳥

西月

子花

竹園社

松甫

其鶴

蕉枝

里芳

志周

井左

様枝

風葉

松葉

梅

梨の花

あけぼの梅のつぼみはさくらさくら
のちてをばはるるさくらさくら
さくらさくらと押あそびの工
法探訪の山吹のさくらさくら
勢ひ小唄うさくらさくら
刑を待ててさくらさくら
さくらさくらあそびさくらさくら
おもしろさくらさくらさくらさくら
おもしろさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

下 鳳 詠
枝 技
雪 洞
想 曉
花 露
○ 丸
神 妙
高 抱
思 文
一 出
茂 屋

柳の花

柳

桜 桂

桜くまやさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
月も日もさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

井 眉
花 望
四 季
養 札
積 枝
日 向
月 娘
全
奇 園
井 花

そなたうらさのばあやあきさへ
あつ薄とくみで人居すゝる様
月もろくや海ちう敷の篠のふ
すゝくはふ汝やうなる夕さへ
樹の下の登の根あるさくらみ
おとあへとあさぬ甘やちる様
麻の子乃汝まお自らやあさへ
紫とのもはしりてあの子鞋喰
鞍の癒て花もる素柳うぬ
花よのあし一列くるいひきか
お清くあめりうつたはあらる

史柳
月娥
全
徳イヨ暁
松原
子夜
全
采采中扇
井左
全
後皮

花

まの清
は干
社社虹
美子
梅
まの清
は干
社社虹
美子
梅
まの清
は干
社社虹
美子
梅
まの清
は干
社社虹
美子
梅

全
采石
松閑
史雲
史果
史定
井肩
西月
紀列
史楽
史春

椿

初

卯梅

梅

あらしと梅の枝に破福瓜

差るとて啼く梅の枝に花

ゆきふりぬきとてまじり

さう浪の音に笑う花さき

卯梅の枝に花さき

卯梅の枝に花さき

苗代

菜の花

菜の花にうすく梅の枝

菜の花にうすく梅の枝

菜の花にうすく梅の枝

戸丸

呉月

奇

丹肩

汁六

星沈

井左

成美

丹左

東局

銀元

月夜

全

全

蕉枝

陽孝

白

画

井石

文賀

炭白

山吹

みふ花のうすく梅の枝

傘のうすく梅の枝

梅にうすく梅の枝

咲きぬ花のうすく梅の枝

梅のうすく梅の枝

梅のうすく梅の枝

梅のうすく梅の枝

梅のうすく梅の枝

梅のうすく梅の枝

梅のうすく梅の枝

梅のうすく梅の枝

梅のうすく梅の枝

あはれの下ゆい 表果
大達ちのそめ風や山ド 松南

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

あはれ 東系

蛙	蛙	蝶	田螺	涅槃	彼岸	交歌
志翫する蛙は持守りく蛙	少くもなるて案さるる人の母	鳥に振るしくて又てやりぬ瞳の白	死にてふ世共六傘に白く母	善てきて蝶ある境のの蝶	拙てる蝶は河のれや死にてふ	牛除の思おこりや田はし
高のキ あり丸	ラシ 梅櫻	アキ 鳥花	昆丸	一好	子花	東翁
三奈	千崖	早沈	人たりするや彼岸の秋の毫	海月花の影を流すの護ひと	福を人命をりさるる神の花の	福を人命をりさるる神の花の
久風	全	犯上院	所はと河のたうらるる似て夢	鳴止てまのの乳おく柳の心	いよよとてしてる梧の心	いよよとてしてる梧の心
抱後	三三	三三	吟らめてせんりるる梧の心	形してぬる家さありて花を母	葉の花を此の心はぬの系	葉の花を此の心はぬの系
伊三	本士	本士	葉の心はちあらくいゆる春の春	命に熟るくてもあむ世を	命に熟るくてもあむ世を	命に熟るくてもあむ世を

花	柳	梧	葉の花	葉心	新合
花	柳	梧	葉の花	葉心	新合
花	柳	梧	葉の花	葉心	新合
花	柳	梧	葉の花	葉心	新合
花	柳	梧	葉の花	葉心	新合

そむ花 踏むふりすうとほのひたりん
燕 山今中へたうま袖七鳥
綴る けりあまのまやけりけり
花の葉 葉のうらと花をけり花う糸
花子 花うけり白付の葉、立花
蛙 田うまの葉の影まきく蛙
蝶 蝶のまきちりくまや鳴蛙
土まふ ち花をふまぬ中へ越とふ
夏之部 てもくのもてあまの身
夏之部 ともふり足まきまふ

夏之部

泉左 一肖 法華 荑枝 虫霞 金汀 河路 紫石

四月

夏之部

花もも柳を眺る四月う花
懸のそらくく懸るけり
十葉ふれと竹きすの四月
きつたりと不二花せ柳四月
とのもも花に白付四月
浦の家の若にかる四月
うらわの長も花に花はる
あまのまも花うまのまも
夕涼に打竹てあまのま
夏川々小魚のまも

久嗚 井 東翁 経堂 草居 子花 四季 文契 寸久花

牡丹

何事ぞもよみのほろむ河の山
わん切のちを振りて足せたる
固をいふ人付て足す方牡丹
かそつふふふ紫を飾とわん
世歌のふたおたす牡丹
ちるぬるた法りよま牡丹
あすおじゆたあやふあん
牡丹の方向を八掃ぬ牡丹
咲やん誰をいふぬ
わきつるふあやう牡丹
鶴乃親子於ひやう牡丹

欠風
好風
画牛
其柳
猿枝
表果
其遊
全
星池

杜若

五月

牡丹

戀のやうにワサワサ
世をすくぬるも 眠るも
大あ乃牡丹んも白牡丹の
鶴乃親子
ゆきをぬるちと歌の牡丹
はくちるふふの足さぬ
接れあふあふ牡丹
やんふふ歌のあす牡丹
まをさる牡丹牡丹
まをさる牡丹牡丹
あす牡丹牡丹

欠風
其遊
全
星池
万俟
其遊
表果
猿枝
其柳
画牛
好風
欠風

新樹

あす牡丹牡丹

井左

柳の花	柳の葉	田植	今年竹	時香	布穀	鶉川	鶉入	浴	小野の茶
柳の葉を揺らぐにやうに	田植のやうに	今年竹のやうに	時香のやうに	布穀のやうに	鶉川のやうに	鶉入のやうに	浴のやうに	小野の茶のやうに	
万	丹	手	茶	相	全	史	素	角	子
流	是	器	清	舟	全	宿	志	風	夜
									月

柳の花	柳の葉	田植	今年竹	時香	布穀	鶉川	鶉入	浴	小野の茶
柳の葉を揺らぐにやうに	田植のやうに	今年竹のやうに	時香のやうに	布穀のやうに	鶉川のやうに	鶉入のやうに	浴のやうに	小野の茶のやうに	
万	丹	手	茶	相	全	史	素	角	子
流	是	器	清	舟	全	宿	志	風	夜
									月

小野の茶 月
 子夜 角風
 素志 史宿
 全 相舟
 茶清 手器
 丹是 万流

和伸
 菰
 一峯
 經堂
 全
 表果
 貞風
 了林
 貞柳

和伸
 菰
 一峯
 經堂
 全
 表果
 貞風
 了林
 貞柳

けささくけささくけささくけささく

田植 菰引て風名榎に去ぬ田う糸

紫切書 何ちさのや皆うり結ちく葉風呂

凌宵 凌宵や唇も戸させしそ何ち

方木立 足ぬハ梅足ぬハさくとも木立

時鳥 子親里あけしける松をひか

杜宇 杜宇 泣見返くぬ木さる馬

時鳥 鳴やつすく肩乃さる

郭公 郭公 松より風のそよあか

杜鰓 杜鰓 糸は命を臨詠成中

りのぬまをば擡やゆくとあは

栂の書 世と於し接念るし栂の書

菰子 菰とさるふれすのやりの花

二部 二部 八月も逢はぬの書

あちさのや解き地行 鹿

あらさのさめや葉さく藤ふ

新樹 新樹 挿金とを後おすの彩樹や

花里 花の院うらさる形をさぬか

美人峠 美人峠 糸は命を臨詠成中

自降と換子ハハハハハハハハ

菰の花 古横ハ山迹に多き菰の花

百合花 百合花 花は命を臨詠成中

東翁
 星澄
 東翁
 此角
 十丈
 芳洲
 其桂
 風津
 自
 松南
 菰乳

田植

踊る場を祥祐了田之

西月

麦秋

種りて形をあり水田

南

牡蠣

家母を埋まにりる麦秋

朱美

日と探求をありるや都

杜を

松人

杜を

杜を

松人

芥のみ

芥のみにりる灯燭掛了

松人

甲のち

甲のちたけやぬ子秋

松人

世と確

世と確一甲私やあす

松人

丁のり

丁のりたけまのりや都

松人

鶴と

鶴と秋昔の少きや牡蠣

松人

里

里

松人

夕白

夕白年時をやるの風知れぬ

里

夕白

夕白顔ふ赤かすのりて

里

夕白

夕白うけやるかてはる徳の

里

夕白

夕白身田茶や茶をたれふ

山

夕白

夕白望の白や茶茶あな

南

夕白

夕白るるやと樹のまにた

南

夕白

夕白旋るのりや那をのみの

南

夕白

夕白夕白やまをりし

南

夕白

夕白夕白のまをりし

南

夕白

夕白夕白や月のまをり

南

夕白

夕白夕白や黄金の原の

南

夕息や拾見さうふ家二の
 此湯也や志めりは思ふ事
 松東
 揚麻 多立て皆り 初見ぬ揚麻
 里志
 孫の巻 七休おしあわす其之孫の巻
 全
 蓮 誰もく来てゆき蓮の花
 松舟
 回廊の壁に正て蓮の花
 井藤
 茄子 茄子見ても其は又や面を
 成美
 新巻も教よ入る初見の子
 鎌倉
 柳皮

新巻の巻 新巻の巻
 瓢茶
 朝陽
 垂井
 首老
 日影
 井眉
 井左
 井人
 井丸
 布教
 山人の瘦ても其はまた
 連教を誰も其は其は

かへこも鳴くあや山跡

東風

鶺鴒

此鳥りの似群或は鶺鴒の

全

塙塙

塙塙やけりて交を七交す

塙塙

かたなりやちにかたなり古援

杖

飛蟻

きつ飛蟻るの負する川柱

東翁

小松子もまゝそそ飛蟻の飛馳

井庄

鶺鴒

大鶺鴒やまゝあゝとあゝ鶺鴒の鳴

梅價

鶺鴒の舟の底やまゝ海をさす

抱負

海やれと浪りの鶺鴒亦れ

浮沈

すゆゑも浪は鶺鴒の

奇例

螢

和らゝゝあゝとあゝとあゝとあゝと

何丸

雜

不

思ふるの舟に渡りて不の山

如兄

二

神鳴乃旬子向う海に山

井庄

五月

月ふかりぬめや神又お月ふ二

とせ成

牛の子乃神に出初ぬお月が

雪山

五のあ

房中への空もくふさくあや

世南

あゝとあゝ横子と出道の糸

杖友

古きのはかろく後へあゝあ

似様

纏さもど紀宵のる歌

年雄

ありしや畦道空しく蛙のこ
 松浦
 月あそびも徒ややむる
 奇井
 分別を移す跡して青月
 此角
 今利ひふゆ首の緒やむる時
 楓伴
 憎よにやと押上風のかりか
 学笠
 昔蒲分
 かたいろや家にもた力を破く
 不ち辰
 下地
 下地あちちととるを難魚
 井岡
 首蒲
 下地あちちととるを難魚
 松浦
 松人
 東角
 井丸
 あやめゆ
 捧掬て昔蒲
 井丸

月あ
 さみそねや藤原のしりし
 猿枝
 櫻揚りけや中月乃の岸
 全
 ありしや跡も拵ぬ江のゆ家
 程曉
 ありし女乃皆もはさつし
 約翁
 田植
 布衣のるの秋中よある田植
 松舟
 植多程度うも田乃風取
 丸
 ありし女のをを合や境誠
 長風
 植よせや田よせある月あ
 寺
 ありしや跡も拵ぬ江のゆ家
 序文
 ありし女乃皆もはさつし
 梅人
 ありし女乃皆もはさつし
 寺

浮葉	皆輕みうく入海くも	子花
若妻	事なきくきよあま	思文
蟬	却つてきぬを修し	朧
	本移とはく梅や	千里
	ゆはりとも根く	異月
	事なきくきよあま	巴水
	皆輕みうく入海くも	一肖
		子花

布穀	人の能をもるれ	子花
	中車使くも	思文
	昔うくく	朧
	け坊ハ今に	千里
	飛命と	異月
	あ門の内	巴水
	庭をま	一肖
		子花

菅	萬葉の草の類	子雀
塙	塙の類	貝雀
塙	塙の類	全
更衣	更衣の類	多針
裕	裕の類	井花
漢	漢の類	貞風
喜	喜の類	根水
草	草の類	茂

竹植	面衣の類	柳風
著竹	著竹の類	紫石
百合	百合の類	南
栗の花	栗の花の類	鯉
薄の花	薄の花の類	紫石
草	草の類	柳
夏草	夏草の類	風

水はくはたの歩りやまの乾
天来

田植
つまじりさきまの安みや田植舟
曉

日を選ばぬものぬ田植は
奇

昔田
よ敷いとも風流多田うぬ
子

麦秋
麦秋やあふあ(の白結) ^カ指月
指

系橋
系ささくや大門出く人す集
如

聖麦
あそことんが秋味や楠のま
首

松るやると令んで入遠(百) ^ト梅
梅

あとし思ひあふああうと遠
井

水鏡
珠入の門こまき秋くつまが
全

めふもあひはあふああうと遠
南

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

あふあひはあふああうと遠
井

水鏡

大根供ふ人子かりり

櫻木

草花記の涼の田や

其桂

もつれと見子猪出し

梅價

夫草の跡跡して

草

山住は浮草の中

赤井

川跡の依日子

井丸

古跡まじりこよえ

野揚

有るは

里臺

ひやりけ

子雀

龍草会

芦海

夏昏

奉騰

吟

夕すく昔つり

残花

表

夏せの船手

る汁

打水

おぬやまき

和仲

首痛

おけを

東海

田植

草の

井丸

田植

草の

賞僕

梅

梅の

其雀

梅

梅の

茂翠

梅

梅の

如旭

梅

梅の

井右

梅

梅の

貞

板

改らるるやまたあきなり 柳は家

あき

帯

帯のひやもくは 帯も柳のちり

井月

緞

緞桶ふさとり 太のきる 赤は所

あき

布

あといふ 跡のゆたやんこも

あき

総

帯ききまのりのと 総の朝使

あき

帷子

袴あて入にまつる ちやもき

子花

浴衣

ゆつこきで足ふ 出るの湯水

松人

けり花

どきとみよ 舟のきり 舟のきり

子花

柳

想とまけん 舟のきり 舟のきり

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

五月

五月のす ちき 五月のす

指月

後夜 みる秋の女は。月夜
 清水 汲りて。水子に清水
 涼 涼しや魚の夜。小川
 青尻 青尻の。魚の魚
 後の山 何やと。山
 雨の降 雨は。山
 惟子 かく。山
 葉玉 葉玉は。山
 競馬 競馬は。山
 及神水 及神水は。山
 虎泪雨 虎泪雨は。山

久 霜 霜は。山
 藤子 藤子は。山
 菅 菅は。山
 青 青は。山
 惟子 惟子は。山
 浪衣 浪衣は。山
 線 線は。山

里童

松濤

サカヤ 狸登

山

サカヤ 井六

山

カサヤ 揚月

山

サカヤ 松人

山

サカヤ 吳月

山

サカヤ 香風

山

サカヤ 其来

山

サカヤ 竹人

山

サカヤ 〇丸

山

サカヤ 菅石

山

サカヤ 雪流

山

サカヤ 紀層

山

サカヤ 素花

山

サカヤ 杉舟

山

五月

五月の月

信竹

六月

六月の月

竹人

七月

七月の月

猿

八月

八月の月

全

九月

九月の月

全

十月

十月の月

全

十一月

十一月の月

全

十二月

十二月の月

全

一月

一月の月

全

二月

二月の月

全

三月

三月の月

全

四月

四月の月

全

六月

六月の月

馬神

水室

水室の月

馬神

冬

冬の月

馬神

暑

暑の月

馬神

水室

水室の月

馬神

冬

冬の月

馬神

暑

暑の月

馬神

水室

水室の月

馬神

冬

冬の月

馬神

暑

暑の月

馬神

水室

水室の月

馬神

冬

冬の月

馬神

暑

暑の月

馬神

水室

水室の月

馬神

冬

冬の月

馬神

暑

暑の月

馬神

風薫

風うゆる木のちとある女の子

其柳

扇根ありお入お入て風うゆる

子産

誓古矢ハ再ひおれそせ薫

全

涼風

涼風やゆるりふ秋の香

全

納涼

人の所まで掃てある涼風

日向
月旅

消滅の音の故きをや新きみ

其樂

涼さや雨多雨りあの香

休人

榎木危の香を新きて初涼風

残花

一の温気とおる心秋や涼

全

清川や牛曳涼風より涼

サガ
善竹

十軒の村や涼風の涼

タキ
た着

涼しき薄衣より風のこ

馬旅

すくすくや多の涼よ水に在

里童

涼しきや足音もせぬ涼の暮

里石

すくすくは乃足一平曲やぬの鐘

其響

清水

水の女に極道ぬや昔清水

其柳

枝月ありあけりてへ涼風より

其柳

かき木もたぬて中涼水の

其柳

系獨乃は涼風よすくすく

百年

取捨の星澄るおき清水の

里童

おき清水

おき清水や昔はなれぬ山路の碑

其柳

其友

其友の山 夜のぬ中より涼風よ

其友

青尻

青尻の尻乃のりてあ人まきり

風律

薰風

上水うりけり家帯て風薫

香也

菖蒲水

菖蒲水も屋敷の草も記燈塔あ

松舟

竹夫人

竹夫人も秋夜あそび中婦人

香舟

扇

人かしの見物か扇や櫛のか

東翁

秋夜

秋夜にほろり出でて秋夜

相人

昔言

昔言にかれりや目の中よ

奉願

田植

田を植へ乳牛の遊女をさ

吳月

竹植

竹植て竹かたあうぬ秋のこ

星登

蓮

蓮の葉ももろくねももろく敷

四季

蓮の人のあそびも蓮のあそ

宿笠

蓮の葉ももろくねももろく敷

松舟

蓮の葉ももろくねももろく敷

狸丸

夕魚

夕魚のあそびも蓮のあそ

東翁

夕魚のあそびも蓮のあそ

星登

旋花

ひるあそびも蓮のあそ

〇丸

旋花のあそびも蓮のあそ

表果

日車

日車のあそびも蓮のあそ

東翁

日車のあそびも蓮のあそ

表果

日車のあそびも蓮のあそ

東翁

麻

あつちをよけく麻をよけ

五月 法峰

田植

植をり夜やある田のあを

竹人

まき

まきのあてまきあつちのまき

米

中皮

中皮すばとまきや中皮のあ

子花

紫柳

紫柳や舟のりまの西あ

甚相

川骨

川骨あつちの舟や川骨のあ上

栲月

粟

あつちのあつちのあつち

観光

秋

あつちのあつちのあつち

呉月

蟬

あつちのあつちのあつち

後枝

蟬

あつちのあつちのあつち

抱後

蟬

あつちのあつちのあつち

学居

白

あつちのあつちのあつち

呉月

水

あつちのあつちのあつち

臨宝

水

あつちのあつちのあつち

文里

水

あつちのあつちのあつち

起鳳

水

あつちのあつちのあつち

刑眉

水

あつちのあつちのあつち

多智

水

あつちのあつちのあつち

画外

水

あつちのあつちのあつち

文里

水

あつちのあつちのあつち

法竹

水

あつちのあつちのあつち

法竹

水

あつちのあつちのあつち

法竹

水

あつちのあつちのあつち

法竹

暮田
 暮田あゝ風や湖水といへば舟
 老をわけてのそとをまき手抱き肩
 ぬる湯のまよふとき月の秋
 新あめのゆくもつとてはまをうふ
 けし偏し守り病もつと手抱きうけ
 いちりけし了るりて抱き持川ふ
 清ふけしなるりてうす枝の舟
 しのあふの川をうすあするは枝ふ
 青きふのしるひするは枝うふ
 暮るまのつとるりてふ芽端ふ
 竹人

海月丸
 海月丸もあつし山影まをけ取
 ひとふあてまのけくさうふ
 雷うし角あつてあけては
 川をうすあつてあつて花の屍
 血あふれのちよあつての流る
 柄に持ち程あつてあつてのあつて
 冬つるるもあつてあつて梅の餅
 うすあつてあつてあつてあつて
 油揚げる餅あつてあつてあつて
 春風
 月夜
 松人
 子花
 春風
 月夜
 松人
 子花
 春風
 月夜
 松人
 子花

春風
 月夜
 松人
 子花
 春風
 月夜
 松人
 子花
 春風
 月夜
 松人
 子花

照射

世の巨匠とて名をふるふより

紀宅

心太

神ありては ありてんを

如旭

浴衣

旅人の陰うすまや 心太

井尾

辻うら

産神の衣被けの身 新浴衣

松人

夏糸

又糸や一色くさりの辻うら

下ノ年
箕山

浄板

一板のま田又世くは板の欠

奇峯

形代

柳もて人ふおさるは板の

草花

茅の薙

岩のふも付て 湯守茅薙の

カハチ
指山

大杉や茅の薙 磨りの人のさ

糸

青嵐

まらちやふさうと歌くあはれ

糸

白雨

登りも海へまらちりくまらん

イヨ
茂菱

白雨

ウのまやふ切くあるは花堂

四季

白雨

あつちやをたふれは 梅雪法

貞風

白雨

白きもの衣をてすは 梅雪法

梅月

白雨

梅にまはるるをまけは 梅雪法

イヨ
梅月

白雨

梅とりふ旅人りくまらん

井尾

白雨

旅人の影のまらちんは 梅雪法

井尾

白雨

土用干 梅さるまは 心やち田干

糸

白雨

おーテのまらちの影は 梅雪法

糸

竹ぬ人 多利のりえか減々竹ぬ人
 重の輝 数馬者のも極地マキの輝
 赤水 重乃らるのまや歳この後より
 赤水 うちあやふめきの重のまの志
 赤水 赤水やまらうしむそ人のり
 赤水 信置とスよそそむ居うの
 赤水 大伊原の昔とすもぬあが

婿朝 其柳 柳 画 山 文 賀

カ
 金 龍

所 持

